

第2部

テーマ別 和文英訳

第1部では最低限おさえておきたい文法項目や頻出表現を学習した。第2部では、そうした知識を活かしながらワンランク上の問題に挑戦していく。その際に、**第1部で得た知識がそのまま使える場合もある**。だが、知らない単語や表現が出てきた場合、自分の暗記している公式が使えないからと言って、あきらめていたら永久に外国語など習得はできない。和文英訳は単なる暗記テストではない。**限られた知識と工夫で未知のものを表現する**ところにその醍醐味がある。

そのためには、文法や構文の暗記以外に、**確実に使える語彙を用意しておく必要がある**。そして、そうした語彙は単に訳語を暗記するだけでなく、辞書の例文や本書の模範解答を通じて**ニュアンスや使い方、語法まで確認**することが欠かせない。例えば、動詞であれば他動詞なのか自動詞なのか、**どういう前置詞と使うのか、目的語には「人」が入るのか「物事」が入るのか、さらに「物事」といってもどのような範疇の語だけに限られるのか、**といった確認である。名詞であれば、**可算(可像)名詞なのか不可算(不可像)名詞か、その名詞といっしょに使う動詞は何か、**ということを常に意識していただきたい。**ambition**という語をただ「野心」とだけ覚えても意味がない。**achieve one's ambition**「志を遂げる」という組み合わせで覚えてはじめて「使える語彙」となるのだ。こうした語と語の組み合わせを**コロケーション**と言う。**単語はコロケーションや決まり文句で覚える癖をつけよう**。

次に、知っている表現だからと言って、前後の文脈や常識を無視してただ機械的に当てはめようとするのも困る。場合によってはそうした知識があだになることもある。語学学習はあらゆる角度から総合的に思考しなければならない。そういう言い方をすると難しいと思われるかもしれないが、それは逆で、常に常識を働かせながら、あるいは文脈を考えながら訳す癖をつけていると、英訳に困っている箇所を違う発想から表現できたり、そもそも英語では訳さなくても済むということに気づいたりするのである。

第2部はそうした応用力のつく問題ばかりをテーマ別に並べてみた。ここから先は単に暗記すればよいという項目ではない。1つ1つの問題をいろいろな角度から考えてほしい。もちろん、新たに発見した知識は貪欲に吸収してほしいが、まずは自分の語彙力で何とかならないか常に頭を使っていただきたい。その姿勢がのちに大樹を育てることになるはずだ。